

批判的思考態度が第一子を育児中の親の心理的適応に与える影響 (中間報告)

畿央大学 西 尾 祐美子

The impact of critical thinking attitudes on the psychological adaptation of
first-time parents?

Towards the Adaptive Use of the Internet in Parenting

Kio University, NISHIO, Yumiko

要 約

社会の変化に伴って、育児に携わる母親の育児負担感や育児不安感などの否定的感情は増す一方である。さらに、インターネット（以下、ネット）の発展とともに、その利便性の高さから、育児においてもネットを利用する親が多くなっている。しかし、ネットにおける育児情報の過多や他者の育児との比較は、親の心理的不適応につながるという危険も孕んでいる。そこで、本研究では、ネット利用から生ずる親の心理的不適応に関連する個人の要因として、批判的思考態度とメディアリテラシーに着目する。具体的には、第一子を育児中の親を対象としたオンライン調査を通じて、育児に関するネット利用と心理的適応に関する個人差の影響因を特定することを目的とする。本稿では、研究の背景や目的、調査計画（対象、手続き、内容）などについて中間報告を行う。

【キーワード】 批判的思考態度, 第一子を育児中の親, インターネット, 心理的適応

Abstract

With societal changes, negative emotions such as the burden and anxiety associated with child-rearing among parents have been increasing. Furthermore, with the development of the Internet, many parents now utilize online resources for child-rearing due to the high convenience it offers. However, the overwhelming amount of child-rearing information available online, as well as comparisons with others' parenting practices, poses a risk of psychological maladjustment for parents. Therefore, this study focuses on individual factors, such as critical thinking attitudes and media literacy, that are related to psychological maladjustment arising from Internet use. Specifically, the research aims to identify the factors influencing individual differences in the relationship between Internet use for child-rearing and psychological adjustment through an online survey targeting parents raising their first child. This paper provides an interim report on the research background, objectives, and survey plan.

【Keywords】 critical thinking disposition, first-time parents, Internet, psychological adaptation

問題と目的

現代の日本では、核家族化や地域交流の希薄化などにより、以前は祖父母や近隣の人々から得られていた育児に関する支援が得られにくくなるなど育児環境が著しく変化している（中島・永井，2020）。そのような状況で、88.6%の親が育児情報源としてインターネット（以下、ネット）を利用しており（住吉他，2015）、ネットは現代の育児に不可欠なものとなっている。育児に関するネットの利用については、ネットの利用が親の育児不安を軽減するという報告（小林，2004）もあり、乳児を抱え外出も困難な親にとって、ネットは大きなサポート源となる可能性がある。特に、第一子の乳児の親は、既有的知識や経験が少ないうえ、「良い親」であるべきという重圧から医師など専門家に情報を求めにくく、ネットの情報を頼る傾向がある（Loudon et al., 2016）。しかし、誰でも情報を発信できるネット上には、専門家の助言から個人の意見・感想まで多様な情報が溢れ、育児情報の過多や他者の育児との比較は、親の心理的不適応にもつながることが指摘されている（外山他，2009；Coyne et al., 2017）。

乳幼児を育児中の親は、年代を問わず疲労感や肩こり、不眠、身体の倦怠感等の不定愁訴が多く、身体的・精神的不調を有することが指摘されている（山西・渡辺，2017）。親の不安や抑うつは、10年以上を経て子どもの情緒の問題につながる（Walker et al., 2020）などといった研究知見でも示されているように、親の心理的不適応が子どもの健全な発達に負の影響を及ぼす可能性は否定できない。そのような状況から、育児に関する情報源や心理的つながりの場として、ネットを頼らざるをえない親が多くなっており（外山他，2009）、育児に関するネット利用に起因する心理的不適応へのアプローチは重要である。

そこで、本研究では、育児に関するネットの利用が、第一子を育児中の親の心理的適応に及ぼす影響因子を明らかにするため、個人の心理傾向に着目した。ネット上の多様な情報の利用に関連する個人の要因として、批判的思考態度が挙げられる（山本他，2019）。批判的思考とは、自らの推論課程を意識的に吟味する省察的な思考であり、何を信じ、主張し行動するか決定に焦点を当てる思考（Ennis, 1987）を指す。客観的かつ合理的、多角的に物事を捉える批判的思考態度は、ネット上の育児に関する情報を適切に取捨選択し、活用するために重要となる可能性が高い。古見・西尾（2022）では、子どもと関わった経験の少ない大学生は、批判的思考態度の得点が高いほど育児に関する情報に過剰に影響を受けないことが示された。また、メディアリテラシーは、メディアが形作る「現実」を批判的に読み取るとともに、メディアを使って表現する能力（菅谷，2000）であり、批判的思考の一領域としての側面を持つ。Kusumi et al.（2023）は、福島原発事故によるリスク認知を調査した結果、批判的思考態度がメディアリテラシーを高め、そのことが過度な被災地食品の回避を抑制することを示した。一方、同調査において育児中の親は、放射線の健康への影響に対する不安が高く、

被災地食品を回避する傾向が高かった。このように、育児中の親が情報を読み取る際には、特徴的な批判的思考態度の影響がみられる可能性がある。

これまでの研究により、批判的思考態度やメディアリテラシーは、主体的・積極的な情報収集や衝動性と関連することが指摘されている（楠見・松田，2017；Liu et al., 2021）一方、不安などの心理的不適応との関連は示されていない。以上を踏まえると、批判的思考態度をもち、メディアリテラシーが高ければ、根拠もなく一般化もできないネット上の情報に過剰に影響を受けにくいと考えられ、このような親は必要な育児情報を適切に取捨選択できるため、ネットの利用に伴う心理的不適応に陥りにくいといえる。

したがって、本研究では、第一子を育児中の親が、ネットの利用によって心理的不適応に陥ることを防ぎ、ネットを適応的に利用しながら育児ができるようにするため、親の批判的思考態度やメディアリテラシーが育児中の心理的適応に与える影響を明らかにし、現代の育児における適切なネット利用についての心理学的知見を得ることを目的とする。さらに、第一子の年齢（乳幼児，児童）による比較検討も行う。

方 法

調査協力者：0～12歳の第一子を育児中の親，男女あわせて300名程度を対象とする。

調査手続き：最初に本研究の概要およびプライバシーの保護，研究協力の撤回の自由などに関する説明を画面に提示し，研究協力に同意する方のみ，ネット上でのアンケート調査に回答してもらう。

調査内容：フェイス項目として，回答者の情報（年齢，最終学歴など），子どもの情報（月齢など），育児の状況（配偶者の育児参加など），育児に関する主な情報源，ネットの使用状況（頻度や用途など）を尋ね，以降は次の尺度項目で構成する。

(1) 批判的思考態度尺度（平山・楠見，2004）：「論理的思考への自覚」「探求心」「客観性」「証拠の重視」の計33項目を用いて，批判的思考の態度的側面を測定する。

(2) ウェブアクセス・リテラシー尺度（山本他，2019）：上述の批判的思考態度尺度と重複しない，「内容特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略」「ウェブ情報の信憑性判断時に生じる認知バイアスへの耐性」「ウェブ検索エンジン利用スキル」「発信者特性に関連したウェブ情報の信憑性検証戦略」の計30項目から，メディアのうちウェブに関するリテラシーを測定する。

(3) 育児への否定的・肯定的感情尺度（荒牧・武藤，2008）：「育児への負担感」「育児への不安感」「育児への肯定感」の計20項目から，親の育児における心理的適応状態を測定する。

(4) 育児ストレスショートフォーム（PS-SF）実用版（荒木他，2005）：「子どもの特徴に関わるストレス」「親自身に関わるストレス」の計19項目から，親の育児ストレスを測定する。

現在の進捗状況

すでに所属先の倫理審査委員会より研究実施の承認を得ており，調査実施に向けて調査内容の最終

確認および民間の調査委託会社（株式会社クロス・マーケティングを予定）とのやりとりを進めている。

引用文献

- 荒木暁子・兼松百合子・横沢せい子・荒屋敷亮子・相墨生恵・藤島京子（2005）．育児ストレスショートフォーラムの開発に関する研究．小児保健研究，64（3），408-416．
- 荒牧美佐子・武藤隆（2008）．育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い：未就学児を持つ母親を対象に．発達心理学研究，19（2），87-97．
- Coyne, S. M., McDaniel, B. T. & Stockdale, L. A. (2017). "Do you dare to compare?" Associations between maternal social comparisons on social networking sites and parenting, mental health, and romantic relationship outcomes. *Computers in Human Behavior*, 70, 335-340.
- Ennis, R. H.(1987). A taxonomy of critical thinking dispositions and abilities. In J. B. Baron & R. J. Sternberg (Eds.), *Teaching thinking skills: Theory and practice*. New York: W. H. Freeman and Company. pp.9-26.
- 平山るみ・楠見孝（2004）．批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響—証拠評価と結論生成課題を用いての検討．教育心理学研究，52，186-198．
- 小林真（2004）．インターネットの利用が母親の育児ストレスに及ぼす緩和効果．富山大学教育学部紀要，58，85-92．
- 楠見孝・松田憲（2017）．批判的思考態度が支えるメディアリテラシーの構造．日本心理学会第71回大会発表論文集
- Kusumi, T., Miura, A., Ogura, K. & Nishikawa, K. (2023). Attitudes toward possible food radiation contamination following the Fukushima nuclear accident: A nine-year, ten-wave panel survey. *Journal of Risk Research*, 26（5），502-523.
- Liu, Z., Li, S., Shang, S. & Ren, X. (2021). How Do Critical Thinking Ability and Critical Thinking Disposition Relate to the Mental Health of University Students? *Frontiers in Psychology* DOI:10.3389/fpsyg.2021.704229
- Loudon, K., Buchanan, S. & Ruthven, I. (2016). The everyday life information seeking behaviours of first-time mothers. *Journal of Documentation*, 72（1），24-46.
- 中島千英子・永井由美子（2020）．母親の育児情報源としてのSNS利用に関する調査．大阪教育大学紀要 人文社会科学・自然科学，68，41-49．
- 菅谷明子（2000）．メディア・リテラシー—世界の現場から．岩波書店
- 住吉智子・脇川恭子・五十嵐真理・田中美央（2015）．未就学児の保護者のメディア・リテラシーにおける基礎的情報能力に関する研究．小児保健研究，74（4），498-505．
- 外山紀子・小館亮之・菊地京子（2009）．母親における育児サポートとしてのインターネット利用．人間工学，

46 (1), 53-60.

Walker, A. L, Peters, P. H., Rooij, S. R., Henrichs, J., Witteveen, A. B., Verhoeven, C. J. M., Vrijkotte, T. G. & Jonge, A. (2020). The Long-Term Impact of Maternal Anxiety and Depression Postpartum and in Early Childhood on Child and Paternal Mental Health at 11-12 Years Follow-Up. *Frontiers in Psychiatry*, 11. DOI: 10.3389/fpsyt.2020.562237

山本祐輔・山本岳洋・大島裕明・川上浩司 (2019). ウェブアクセスリテラシー尺度の開発. 情報処理学会論文誌, 12 (1), 24-37.

山西加織・渡辺俊之 (2017). 幼児の子育てをする母親の不定愁訴と育児感情の特徴—保育機関における子育て支援のあり方. 女性心身医学, 21 (3), 314-324.